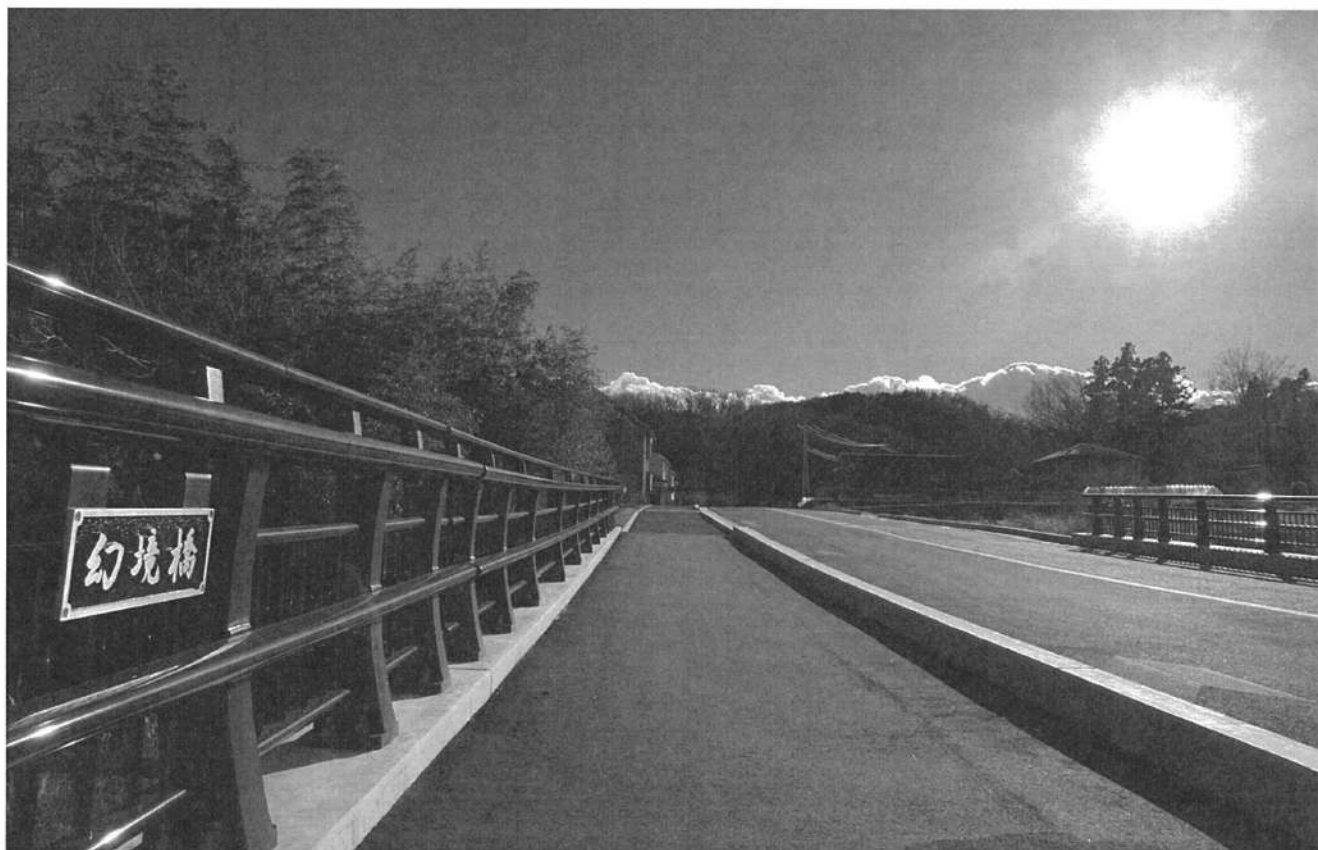


郷土史

第46号

R7.4.15

八王子市川口郷土史研究会



幻境橋 (森下)

撮影・伊藤 勝之

幻境橋

代表幹事 瀬沼 秀雄

今年は戦後八〇年の節目の年に当たり、過去を振り返る良い機会となります。八王子も昭和二〇年八月二日の大空襲で市街地の約八割が焦土となりました。戦後の復興は目覚ましいものがあり、戦争の惨禍は見当たりません。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」の諺があります。日本国憲法前文に「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起こることのないように決意し」とあります。

さて、写真は北村透谷の「三日幻境」にちなんで地元の要望で名付けられた「幻境橋」の風景です。橋のかたわらの上川東部会館には「幻境 秋山國三郎 北村透谷 親交の地」の石碑が昭和五二年（一九七七）に建立されました。

明治の近代文学の先駆者北村透谷が上川町森下の名望家、秋山國三郎を慕い、四度この地を訪れ、「希望の故郷」と呼び、「幻境の地」と称しました。透谷が好んで散策した幻境の面影は、丘陵の造成や宅地化でわずかにしか残っていません。

幻境の地は郷土の誇りであり、私たちの宝です。ここに透谷と國三郎の二人の親交を表す像を建てるのも良いでしょう。高知の坂本龍馬の像のように観光名所になるかもしれません。透谷の出生地で、姉妹都市である小田原市民もきつと喜んでくれるものと思います。